



子ども家庭支援事業について

① せうぞ ② っく ③ んなで ④ っと ⑤ っと ⑥ なる

学校福祉部 子ども支援課【あゆみ】 家庭支援課【きずな】

1 子ども家庭支援事業の状況

(1) 学校福祉部の支援により改善等が図られた不登校児童生徒の状況(人)

児童生徒の状況		R 6 (年間)		R 7 (7月まで)	
登校できた	相談室等に登校	70 ※	20	48 ※	5
	相談室等に定期的に登校		16		21
	教室に登校		30		4
	教室に定期的に登校		28		21
チャレンジ教室や フリースクールと つながった	チャレンジ教室等に通所	14	6	8	2
	チャレンジ教室等に定期的に通所	※	10		6
生活の改善(安定) が見られた	精神的に安定や向上	63 ※	48	37 ※	27
	生活習慣が改善		29		22
	親子関係等の家庭環境が改善		21		19
新たに医療とつながったり、検査が行えたりした		40		26	
新たに関係機関とつながった		31		22	

(注1)「※」…重複する場合があるため、計とは一致しない。下の(2)の表も同様。

(2) 学校福祉部が支援した児童生徒数(人)

実施した支援	R 7 (7月まで)
不登校対応	71
生徒指導対応(いじめ対応を含む)	16
就学支援・特別支援教育に関する対応	116
計	203

※就学支援・特別支援教育に関する対応には、就学支援委員会に上がった人数を含む。

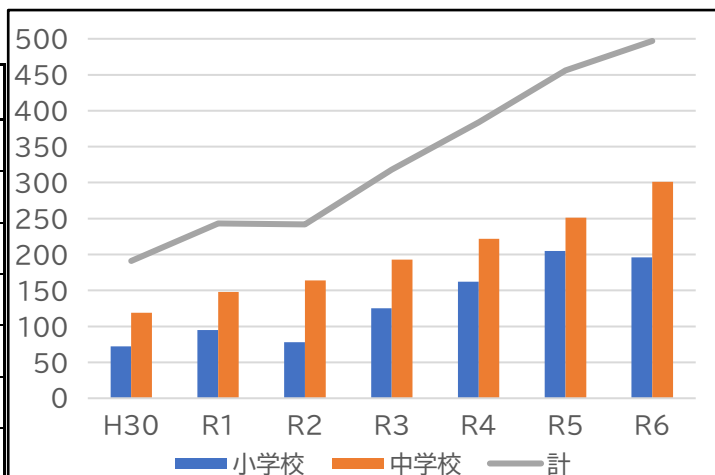
(3) 家庭訪問等の実績(回)

実施した支援	R 6 (年間)		R 7 (7 月まで)	
学校や関連機関と行ったケース会議等の回数	1663		955	
家庭訪問で直接支援した回数	446	1444	161	339
地域交流センターや学校等で直接支援した回数	998		178	
保護者と面談した回数	1447		750	

2 焼津市の不登校の現状

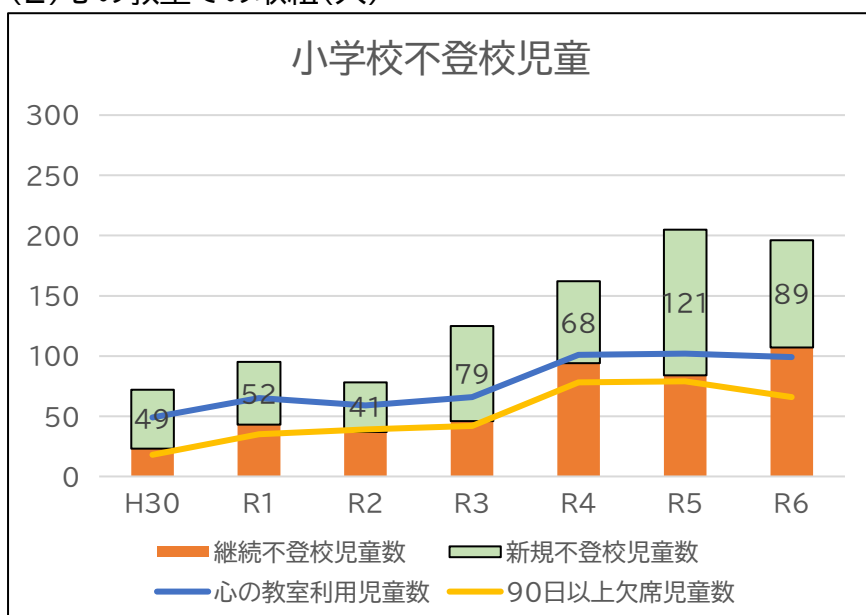
(1) 焼津市不登校児童生徒数推移(人)

	小学校	中学校	計
H30	72	119	191
R1	95	148	243
R2	78	164	242
R3	125	193	318
R4	162	222	384
R5	205	251	456
R6	196	301	497



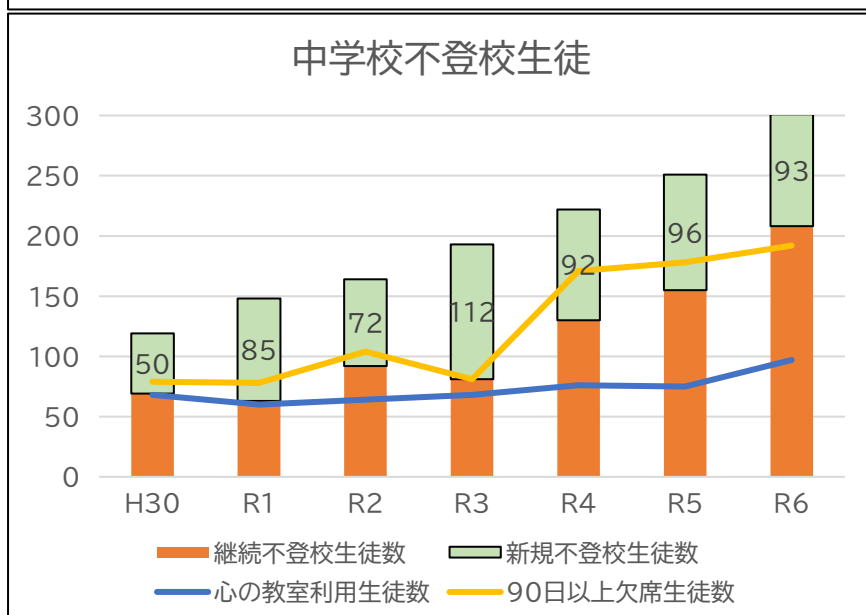
R6は、小学校で不登校数が減少したが、中学校では増加した。中学校の増加は、新規不登校数は増えていないため、小学校における増加の影響が大きいと考えられる。

(2) 心の教室での取組(人)



小学校では、90 日以上
の長期欠席は、不登校
児童(30 日以上欠席)の
半数以下であり、新規不
登校は大幅に減少した。

不登校児童の中には、
登校して心の教室で過ご
している児童もあり、心
の教室は不登校の未然
防止とともに、長期欠席
を防ぐ手立てとしての効
果も見られる。



中学校では、新規不登
校生徒、長期欠席生徒は
R4 から大きな伸びは見
られない。これは、小学
校と同様に「心の教室」
が、不登校の防止に加
え、長期欠席も防いでい
ると考えられる。また、相
談員 6 時間勤務校が増
えたことで、利用生徒数
も増えている。

(3) チャレンジ教室での取組(人)

	焼津チャレンジ		大井川チャレンジ		東益津チャレンジ		合計
	小学生	中学生	小学生	中学生	小学生	中学生	
R2	8	20	9	17			54
R3	12	21	11	16			60
R4	9	36	10	11			66
R5	11	26	8	19			64
R6	7	24	10	19	17	9	86

令和6年度に東益津チャレンジを新設したことで、チャレンジ教室に通所する全児童生徒数が増加している。特に、東益津チャレンジの取組は、他市の注目を集め、見学や視察が数多くきている。9月には、県の移動教育委員会が開かれる予定である。

(4) 学校福祉部での取組

長期の不登校生徒Aさんに寄り添い通信制高校に進学した事例

Aさんは、小学校低学年から不登校になり、学校と家庭、学校福祉部は連携してさまざまな支援策を講じたが、家にひきこもる生活が数年続いていた。

この間、学校と市職員はAさんの母親と月1回の面談を継続し、Aさんを思う母親の気持ちに寄り添い続けた。中学3年になり、Aさんは母親と一緒に市役所で市職員と会うことができるようになり、通信制高校入試に向けて努力を重ね、見事に合格することができた。Aさんは在宅学習でなく通学することを自分で選択し、4月からの高校生活で充実した日々を過ごしている。

3 成果と課題

令和6年度、小学生では、新規不登校数が大きく減少したため、不登校の全数が減少した。中学生でも、新規不登校数は減少したが、それ以上に、小学校から不登校生徒が入学し、中1、中2で不登校であった生徒の欠席が、30日未満までには至らなかったため全数は増加した。

市内の心の教室が「校内教育支援センター」の役割を果たすようになって、2年が過ぎ、各学校で効果的な活用が広がってきている。そうした取組の成果もあり、小中ともに新規不登校児童生徒数が減少するとともに、90日以上長期不登校を防止する効果も表れてきている。今後、心の教室に通う児童生徒にも、教育を受ける機会が均しく与えられるように、心の教室を午後まで開設するニーズが高まっている。

チャレンジ教室では、子ども自身が「やりたい」を見つけ「やってみる」こと、子ども自身が体験することを大切にしている。その中で、自分でできた、自分もできたという経験が自己肯定感を高め、笑顔で過ごすことができるようになっていくと考えている。様々な理由で学校へ足が向かなくなっており、表面上はまるで学ぶことを拒否しているかのようであった子どもたちも、「学びたい」「やりたい」「できるようになりたい」という思いをもって学んでいる。

学校福祉部では、家庭の事情等で学校に足が向かない児童生徒の家庭に対しても、アウトリーチの支援を行っている。今後も、家に引きこもり、社会との接点のない児童生徒がいなくなるよう、それぞれのケースに合わせた支援を行っていききたい。